

2014年3月期の本決算、2015年3月期の業績予想、トピックスなどについて、
ご説明いたします。



2014年3月期 決算説明会

2014年5月

日本金銭機械株式会社

代表取締役社長 上東 洋次郎



2014年3月期の総括



○外部環境

◇海外市場

- ・北米地域のゲーミング市場では、カジノホールにおける設備投資意欲が旺盛
- ・欧州地域では、堅調な需要がみられた

◇国内市場

- ・遊技場向機器市場では、パチンコホールの設備投資に対する慎重な姿勢が影響し、関連設備機器の需要が減退、あわせて価格競争が激化
- ・金融・流通市場では、景気の先行きの不透明感から、厳しい状況に

◇為替

米ドル、ユーロともに前期よりも、大幅に円安で推移
米ドル(実績) 98.00 (前期) 80.11 (円)
ユーロ(〃) 130.55 (〃) 103.48

○成果

- ・4期連続で「増収・増益(営業利益段階)」を達成
- ・中期経営計画(2012~14年度)の重点施策に関しては、実行に移されている項目、そして、既に成果を挙げている項目と総じて順調に実行されている。

1

まず、当社グループを取り巻く経営環境は、米国ゲーミング市場では、景気回復の動きを受けて、カジノホールにおける設備投資の拡大が続き、また、欧州においても、ドイツでのゲーミング規則改正の影響により、需要が伸び悩みましたが、他の欧州各国のゲーミング市場や英国の流通市場において堅調な需要がみられました。

一方、国内の遊技場向機器市場では、遊技人口の減少等の要因からパチンコホールの設備投資に対する慎重な姿勢がみられることに加え、競合他社との価格競争が激しさを増しました。また、金融・流通市場でも景気の先行きの不透明感が影響し、いずれも厳しい状況でありました。

為替につきましては、米ドル、ユーロともに前期比で大幅に円安で推移しましたので、当社にとってはプラス要因となりました。

業績面では、当期純利益は、税金費用の増加により前期比で微減となりましたが、売上高、営業利益、経常利益はともに前期比で2ケタの増加となりました。

また、2012年10月末に策定いたしました中期経営計画で掲げた重点施策につきましても、順調に実行に移されており、進行年度以降で成果の刈り取りに取り組んでまいります。

2014年3月期 連結業績概要



(百万円)

	2013/3 実績	2014/3 実績	前期比		2014/3 期初公表値	期初公表値比	
			率	増減額		率	増減額
売上高	23,441	27,806	+18.6%	4,364	27,200	+ 2.2%	606
北米地域	7,616	10,200	+33.9%	2,584	9,800	+ 4.1%	400
欧州地域	3,804	6,744	+77.3%	2,940	5,300	+27.2%	1,444
アジア地域	241	304	+26.1%	63	200	+52.0%	104
遊技場機器	9,291	8,618	- 7.2%	-673	8,950	- 3.7%	-332
国内金融流通	2,487	1,937	-22.1%	-550	2,950	-34.3%	-1,013
営業利益 (営業利益率)	1,330 (5.7%)	1,761 (6.3%)	+32.5%	431 (+0.6%)	1,870 (6.9%)	-5.8%	-109 (-0.6%)
経常利益 (経常利益率)	1,852 (7.9%)	2,114 (7.6%)	+14.2%	262 (-0.3%)	1,950 (7.2%)	+ 8.4%	164 (+0.4%)
当期純利益 (当期純利益率)	1,432 (6.1%)	1,418 (5.1%)	- 0.9%	-13 (-1.0%)	1,440 (5.3%)	- 1.5%	-22 (-0.2%)

平均為替レート

米ドル	80.11円	98.00円	+17.89円	94.00円	+4.00円
ユーロ	103.48円	130.55円	+27.07円	120.00円	+10.55円

2

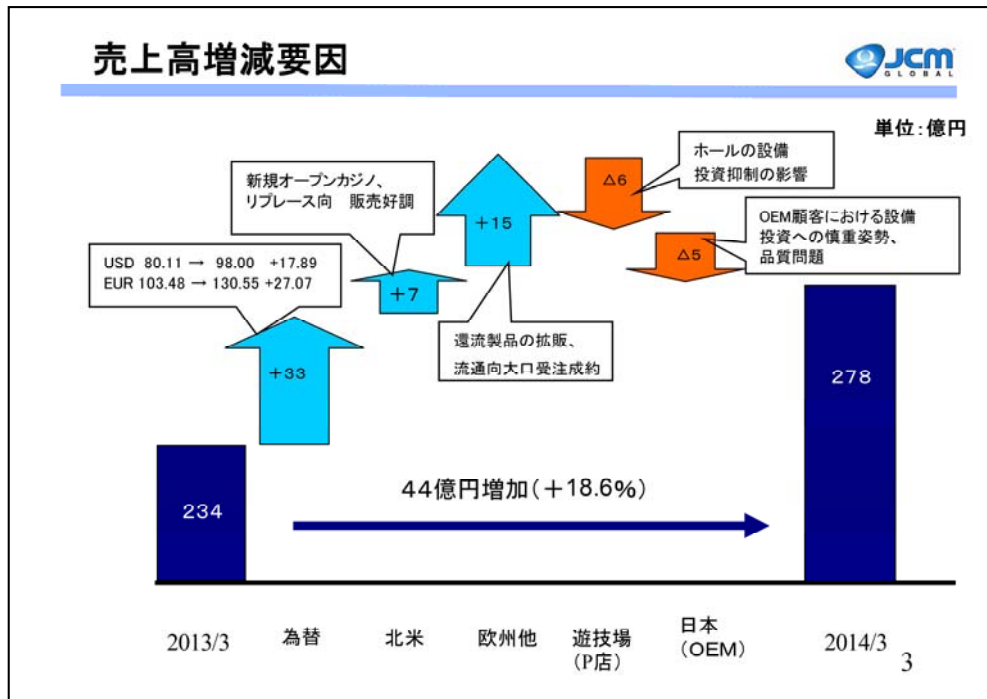
2014年3月期の業績は、売上高は、国内事業が市場要因などもあり低調な推移となりましたが、海外事業が好調に推移し、更に為替要因も上積みされ、前期比では18.6%増の278億6百万円となりました。

また、利益面では営業利益は前期比32.5%増の17億61百万円、利益率は6.3%と収益性の改善も図られました。

合わせて、円安基調が続いたことにより、外貨建資産の時価評価等による為替差益が2億65百万円発生したこともあり、経常利益は前期比14.2%増の21億14百万円と前期比でそれぞれ大幅な増加となりました。

一方で、業績が好調であった海外事業は実効税率が国内に比べて高いこともあり、税金費用が増加し、当期純利益は14億18百万円と前期比で0.9%の減少となりました。

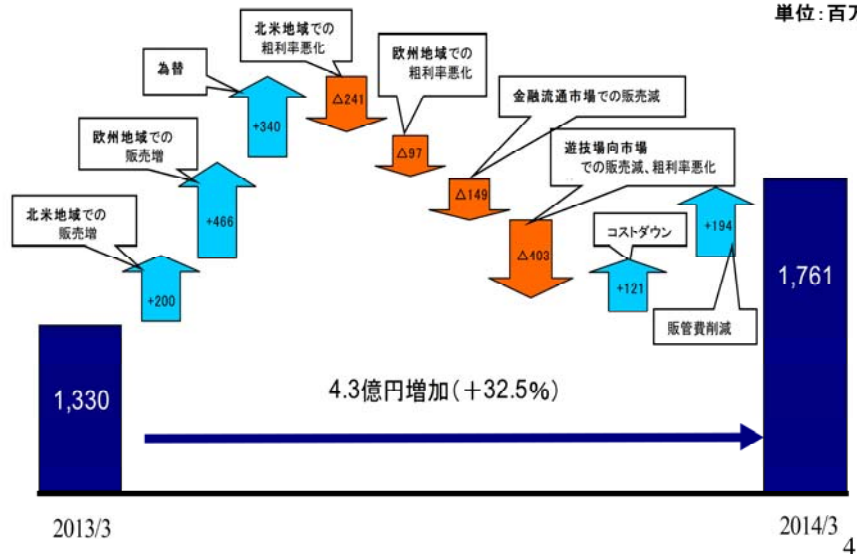
売上高の前期比での増減要因としては、セグメント別での詳細は、後ほど記載しておりますが、左記のとおり、前期比では、総じて国内事業が低調、一方、海外事業が好調に推移し、そこに為替が円安基調で推移したことも大きな増収要因となっております。



営業利益増減要因



単位: 百万円



営業利益の前期比での増減要因としては、3ページのセグメント別の売上高の増減と為替による要因のほかに、区分別で見ますと遊技場向事業でパチンコホールの設備投資に対する慎重な姿勢が影響し、周辺設備機器の需要が減退したことに関連して、案件数が減少し、競合各社との獲得競争が一層熾烈なものになったことなどによる収益面でのマイナス項目もありましたが、前期比32.5%増の17億61百万円となりました。

セグメント別の業績は、左記のとおりです。
 次ページ以降で、各セグメントの概要について、ご説明いたします。

2014年3月期 セグメント別業績



単位:百万円

	2013/3 実績	2014/3 期初公表値	2014/3 実績	増 減		
				前期比	期初公表値比	
日本金銭機械	売上高	9,787	12,350	9,495	-292	-2,855
	外部売上高	2,487	2,950	1,937	-550	-1,013
	セグメント利益	1,135	1,000	725	-410	-275
遊技場向機器	売上高	9,498	8,950	8,679	-819	-271
	外部売上高	9,291	8,950	8,618	-673	-332
	セグメント利益	71	25	47	-24	22
北米	売上高	7,651	9,855	10,272	2,620	417
	外部売上高	7,616	9,800	10,200	2,584	400
	セグメント利益	505	530	699	193	169
欧州	売上高	3,844	5,385	6,759	2,915	1,374
	外部売上高	3,804	5,300	6,744	2,940	1,444
	セグメント利益	228	400	634	406	234
アジア	売上高	9,112	8,300	10,140	1,027	1,840
	外部売上高	241	200	304	63	104
	セグメント利益	144	130	293	148	163
調整	売上高	△ 16,453	△ 17,640	△ 17,539	-1,086	101
	セグメント利益	△ 232	△ 135	△ 284	-52	-149
連結	売上高(外部)	23,441	27,200	27,806	4,364	606
	経常利益	1,852	1,950	2,114	262	164
海外売上高	49.8%	56.3%	62.1%	+12.3%	+5.8%	
	11,671	15,300	17,257	5,586	1,957	

2014年3月期 セグメント別(北米地域)



		2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 期初公表値	2014/3 実績	増 減	
						前期比	期初公表比
北 米	外貨売上高(千米ドル)	70,912	95,077	104,250	104,085	+9.5%	-0.0%
	邦貨売上高(百万円)	5,646	7,616	9,800	10,200	+33.9%	+4.1%
平均為替レート(米ドル)		79.62	80.11	94.00	98.00	+17.89	+4.00

【概要】

- 旧製品のリプレイスによるカジノ向け直接販売の増加
- 景気回復の動きを受けた、カジノホールでの設備投資の拡大によるOEM向けの販売が好調に推移



6

北米地域では、ゲーミング市場向けに当社が過去に販売した旧タイプの紙幣識別機ユニットの入替需要やカジノホールにおける設備投資の拡大が続いたことで、OEM向けの売上が好調に推移いたしました。

また、金融OEM向の販売も堅調に推移いたしました。これらの要因により、外貨ベースで前期比9.5%の増加、さらに円安基調で推移したこともあり、邦貨ベースの売上高は102億円と前期比で34%の増加となりました。

資料の下側にお示しておりますように、ゲーミング市場向の販売はリーマン・ショック以前のレベルにまで回復しております。

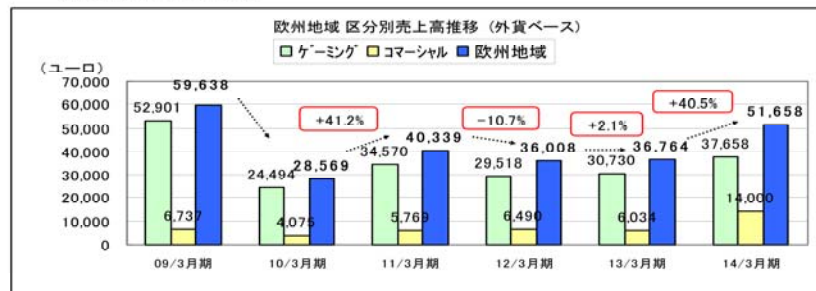
2014年3月期 セグメント別(欧州地域)



		2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 期初公表値	2014/3 実績	増 減	
						前年比	期初公表比
欧 州	外貨売上高(千ユーロ)	36,008	36,764	44,150	51,658	+40.5%	+17.0%
	邦貨売上高(百万円)	4,012	3,804	5,300	6,744	+77.3%	+27.2%
平均為替レート(ユーロ)		111.42	103.48	120.00	130.55	+27.07	+10.55

【概要】

- ・高付加価値の紙幣還流ユニットの販売が好調に推移
- ・流通市場向けの大口受注



7

欧州地域では、法規則の改正の影響により、ドイツでのゲーミング市場向の販売は減少いたしました。その他の欧州各国のゲーミング市場では高付加価値の紙幣還流ユニットの販売が堅調に推移し、また、英国の流通市場向での大口物件の成約といった要因もあり、外貨ベースで前期比40.5%の増加、さらに、ユーロも円安基調で推移しましたので、邦貨ベースの売上高は67億円と前期比77%の大幅な増加となりました。

8ページでは欧州地域で当期の業績に貢献した2つの製品について、簡単にご説明いたします。

上側の写真にあるのが、ゲーミング市場向けの紙幣還流ユニットであります。欧州地域のゲーミング市場では、北米地域のラスベガスにあるような大型カジノではなく、小規模なカジノパラー店舗に設置されているマシンが主であり、左記のとおり店舗と顧客の双方にメリットのある製品として、好評をいただいております。

次に、下側の写真は、大口受注を頂いた流通市場向けユニットが搭載された納金機でございます。

当製品の売りとしては、この機械の内部金庫がパウチ式になっていることで警送運用が容易にできる点と手作業でのカウント作業が不要となったり、違算の発生がなくなる点が挙げられます。

2014年3月期 セグメント別(欧州地域)



◇ 紙幣還流ユニット (UBA-RC)



UBA-RCは、硬貨による賞金払出しが主流になっている欧州ゲーミング市場で運用効率を格段に向上させる製品として好評を得ております。本体に組み込まれた還流ユニットは、指定2金種、各100枚の紙幣を一時保留することができるため、賞金獲得額に応じて紙幣からの払出しが可能です。これにより、プレイヤーも大量の硬貨を受け取る必要がなくなり、店舗側も払出し硬貨の補充作業の頻度が大幅に軽減されるという、双方にメリットのある製品であります。

◇ 流通市場向



左記の製品は、当社のユニットが搭載されたイギリスにおけるOEM製品であるセキュリティ機能付き紙幣納金機であります。当製品は同国におけるクイーンズ・アワードのイノベーション部門で表彰されました。各種店舗において紙幣の識別、計数及び保管を行うもので、高度な技術を備えた弊社のユニットにより、これまで人間の手で行っていた業務の自動化に成功し、計数ミスの削減、業務効率化へ大きな貢献を果たしたことが受賞の理由であります。

※クイーンズ・アワードとは、イギリスにおいてめざましい功績を挙げた企業、個人に対して贈られる表彰で、毎年エリザベス女王の誕生日である4月21日に発表される。

2014年3月期 セグメント別(遊技場向機器)



(百万円)

	2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 期初公表値	2014/3 実績	増減	
					前年比	期初公表比
遊技場向機器	10,389	9,291	8,950	8,618	-7.2%	-3.7%
					-673	-332

【概要】

- ・パチンコ業界の経営環境の厳しさを受けて、設備投資意欲(特に周辺機器)が減退
遊技場関連統計(P.10)参照



9

パチンコ市場の規模は1994~95年がピークで、2012年はピーク時に比べて、参加人口で約38%に、また売上高は約62%の水準であり、とりわけ直近のここ10年間の売上貸玉料、参加人口、ホール数の凋落は顕著であります。
(パチンコホール業界の経営環境の状況につきましては、10ページに記載しております遊技場関連統計をご覧ください。)

このような状況を受けて、ホールサイドは設備投資額を絞り込むなかで、まず営業台が優先され、弊社の取り扱っている周辺機器の需要が減退する傾向にありました。

これらの要因もあり、売上高は86億円と前期比7.2%の減少となりました。

2014年3月期 セグメント別(遊技場向機器)



昨年末比で、・ホール数減少(256店)
 ・遊技機総設置台数は約2万台増加
 (パチンコ 3年連続減少、パチスロ 4年連続増加)

遊技場関連統計

	売上貸玉料	参加人口	ホール数	パチンコ 設置台数	パチスロ 設置台数	合計	1店舗当たり平均 遊技台数	倒産件数
	(億円)	(万人)	(店)	(万台)	(万台)	(万台)	(台)	(件)
2004年度(H16)	294,860	1,790	15,617	307	188	496	318.2	41
2005年度	287,490	1,710	15,165	296	193	489	323.1	39
2006年度	274,550	1,660	14,674	293	200	493	336.5	54
2007年度	229,800	1,450	13,585	295	163	458	337.9	72
2008年度	217,160	1,580	12,937	307	144	451	349.8	72
2009年度	210,650	1,720	12,652	315	134	450	356.2	30
2010年度	193,800	1,670	12,479	316	139	455	365.0	28
2011年度	188,960	1,260	12,323	310	147	458	371.9	22
2012年度	190,660	1,110	12,149	304	154	459	377.2	13
2013年度(H25)	—	—	11,893	300	160	461	387.8	22

(注)・ホール数推移、パチンコ・パチスロ台数は年末時点の数値
 ・2013年度 売上貸玉料、参加人口は未発表の為、空欄

2014年3月期 セグメント別(国内 金融流通)



(百万円)

	2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 期初公表値	2014/3 実績	増 減	
					前年比	期初公表比
国内 金融流通	1,806	2,487	2,950	1,937	-22.1%	-34.3%
					-550	-1,013

【概要】

- ・OEM顧客が、景気の先行き不透明感から設備投資に慎重な動き
- ・一部製品で品質面での課題が発生



11

国内の金融・流通市場では、OEM顧客において景気の先行き不透明感から設備投資に慎重であったことや、一部の製品において品質面での課題が生じたこともあり、販売が低調に推移いたしました。これらの要因により、売上高は19億円と前期比22%の大幅減となりました。

なお、品質問題への対応につきましては、2月末にOEM先との間で改良内容についての了解も得られたことから、進行年度の中頃以降、販売を再開していただけることになっております。

2015年3月期 連結業績予想



単位:百万円

	2014/3 実績	2015/3 予想		前期比	
		通期	第2四半期累計	率	増減額
売上高	27,806	28,500	14,000	+ 2.5%	694
北米地域	10,200	10,000	4,900	- 2.0%	-200
欧州地域	6,744	6,700	3,500	- 0.7%	-44
アジア地域	304	200	100	-34.2%	-104
遊技場向機器	8,618	9,400	4,450	+ 9.1%	782
国内金融流通	1,937	2,200	1,050	+13.6%	263
営業利益 (営業利益率)	1,761 (6.3%)	2,100 (7.4%)	900 (6.4%)	+19.2%	339 (+1.1%)
経常利益 (経常利益率)	2,114 (7.6%)	2,200 (7.7%)	900 (6.4%)	+4.0%	86 (+0.1%)
当期純利益 (当期純利益率)	1,418 (5.1%)	1,500 (5.3%)	550 (3.9%)	+5.7%	82 (+0.2%)
自己資本当期純利益率	5.5%	5.4%	—		-0.1%
総資産経常利益率	6.7%	6.5%	—		-0.2%
平均為替レート					
米ドル	98.00円	103.00円		+ 5.00 円	
ユーロ	130.55円	140.00円		+ 9.45 円	

12

進行年度は、まず、北米地域では前期に業績を牽引したカジノの新規オープン、リプレイス事業、金融OEM向けの3項目の売上がやや下回ることで、既存事業では減少の見込みであります。テーブルゲーム向識別機とアジアの金融・流通・交通市場への拡販により、増収を目指します。

欧州地域では引き続きリサイクルユニットの拡販とロシア市場の開拓により、前期の大口受注の減収分を埋め合わせ、前期並みの売上を目指します。

一方、国内の2事業につきましては、取り巻く経営環境には大きく回復する兆しは見られませんが、遊技場向機器事業では、研磨技術を改良した自動補給設備の拡販、また金融流通事業では品質問題が解消した釣銭機の拡販により、増収を目指します。

損益面では、「ものづくりプロジェクト」を通じて、生産の効率化、市場品質の向上、コストダウン活動の推進に努め、営業利益率の改善に取り組んでまいります。

以上の想定のもと、進行年度の売上高は為替要因も加えて、前期比2.5%増の285億円、当期純利益は同じく5.8%増の15億円としております。

なお、為替レートは、米ドル 103円、ユーロ 140円で想定しております。

13ページ以降では業績予想のポイントについてご説明いたします。

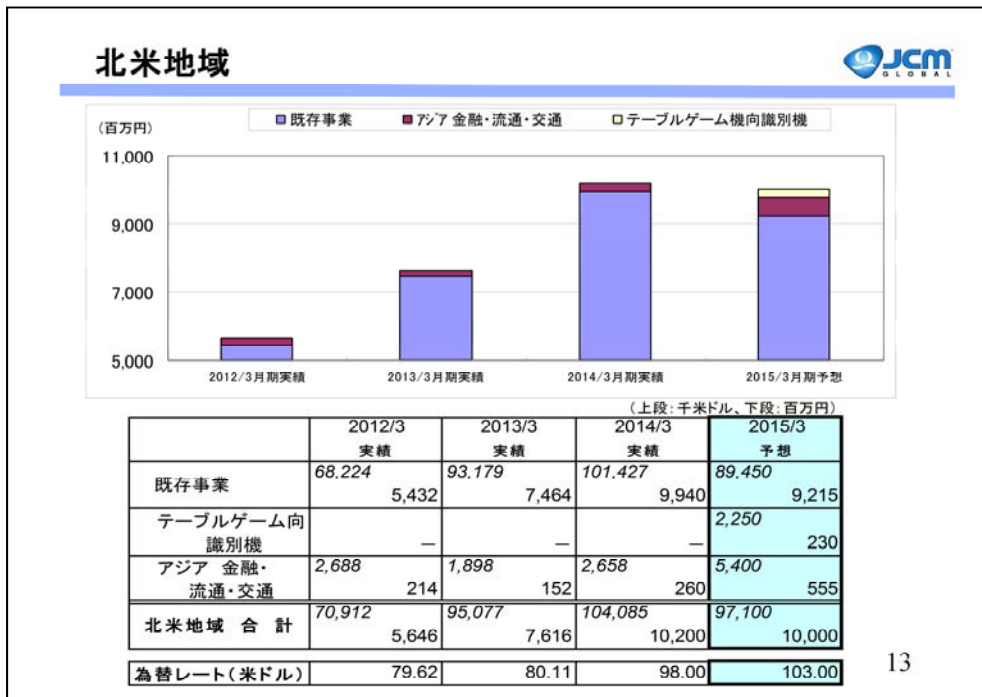
まず、北米地域セグメントについて補足いたしますと、北米ゲーミング市場では2015～17年にかけて、マサチューセッツやニューヨーク、ケンタッキーといった東海岸を中心に新規のオープニングが見込まれるものの、2014年度に関しては各マシンOEMからは前年比横ばい、もしくは減少という情報が多いようであります。

当社としても既存事業だけでは、今後大きな成長が見込めないものと考えており、今後、更に成長を続けていくためには、新たな地域や市場を開拓し、そこで成功を収めなければならないと考えております。

そこで、「アジア ゲーミング市場」、「アジア 金融・流通・交通市場」に特に注力してまいりたいと考えております。

この2分野に関しては、現在のセグメントでは販売を担当しておりますアメリカの子会社にて計上されることから、「北米地域」に含まれており、これらの分野での拡販を業績予想でどのように織り込んでいるかについては、左記に表示しております。

次のページ以降でこれらの分野での状況についてご説明いたします。



成長戦略の実現に向けて: アジア・ゲーミング市場



テーブルゲーム向新製品の早期導入による成長市場の獲得

(百万円)

	2014/3 実績	2015/3 予想	2016/3 中期計画
テーブルゲーム向識別機	0台	500台 230	2,000台 1,175



2014年度: カジノでの実稼動~売上・収益計上スタートの年を目指す
(第1ステップとして、マカオ、シンガポール、豪)

		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
バックヤードテスト	豪・新								
	マカオ								
審査委員会の審査・承認	豪・新								
	マカオ								
フロアテスト	豪・新								
	マカオ								
販売開始	豪・新								
	マカオ								

■ 実施(見込)

■ 計画

14

「アジア ゲーミング市場」へ投入を予定しているテーブルゲーム向識別機の状況について、ご説明いたします。

当市場は、世界最大のゲーミング市場でありながら、機械化・自動化という点からみれば全くの「未開の地」であることから、数年前から開発に取り組んでまいりました新製品の投入により、この市場の開拓・獲得を目指しております。

まず第1ステップとして、マカオ、シンガポール、そしてオーストラリアにおいて、進行年度での売上計上を目指しております。
現在の状況としては、昨年7月以降、シンガポール、オーストラリアで、またマカオでは4月の下旬より、カジノでのバックヤードテストが実施されております。

ただ、今まで自動化されていなかった市場にとっては大きな変革であることから、特に世界で一番厳しいといわれているシンガポールにおいて、規制当局である審査委員会の承認を得るまでに想定以上の時間を要しており、スケジュールを大きく遅らせております。しかし、この新製品に対するカジノ側の導入意欲は変わっていないことから、承認後は成約に向けてはスムーズに進むものとみております。

また、シンガポールに比べて、現場の要望が反映されやすいマカオでは、より短期間で審査が終了、フロアテストに進む可能性があると考えております。

フロアでのテストを順調にクリアして、2014年度を売上計上のスタートの年とし、次年度には第2ステップとしてそれぞれの地域での他のカジノやフィリピン、マレーシア市場への展開を進めていきたいと考えております。

「アジア 金融・流通・交通市場」の状況について、ご説明いたします。

当市場もまだまだ機械化が進んでおらず、巨大市場が眠っている状態であります。このなかで、特にビジネス化が近いと思われるインド市場について簡単に触れたいと思います。

現在、インド市場に向けては、交通分野と金融分野で活動を進めております。交通分野では、鉄道券売機用途として、インド国鉄、都市交通局の2つのルートがあります。

世界最大の鉄道網をもつインド国鉄には、おおよそ10万の駅がありますが、切符は手売りをしている状態であることから、第一期として2020年までに5万台の券売機の導入を予定しているようであります。台数が多いこともあり、他国で既に導入されているものではなく、低価格化、国産化に向けて、入札仕様も独自に策定しているようであります。

入札が2月に始まる予定でしたが、総選挙の関係で5月に伸びたことから、当初6月と予定されていた落札も2・3ヶ月延びる予定となりました。しかし、国鉄の指示により、実際の駅でのフィールドテストは、5月から実施される予定であります。

金融分野としては、CD機向けにI-VIZIONの機能が評価されて、完成品メーカーに採用となり、フィールドテストでの確認作業が進められております。また、実際の店舗でのトライアルが5月から開始の予定であります。

採用が見込まれる台数としては、約2万台といわれており、2014年3Qよりスタートという予定であります。

成長戦略の実現に向けて: アジア 金融・交通・流通市場



各市場で異なるニーズへの速やかな対応により、積極的拡販を図る

(百万円)

	2014/3 実績	2015/3 予想	2016/3 中期計画
合計	260	555	800
インド	23	205	360
タイ	36	100	155

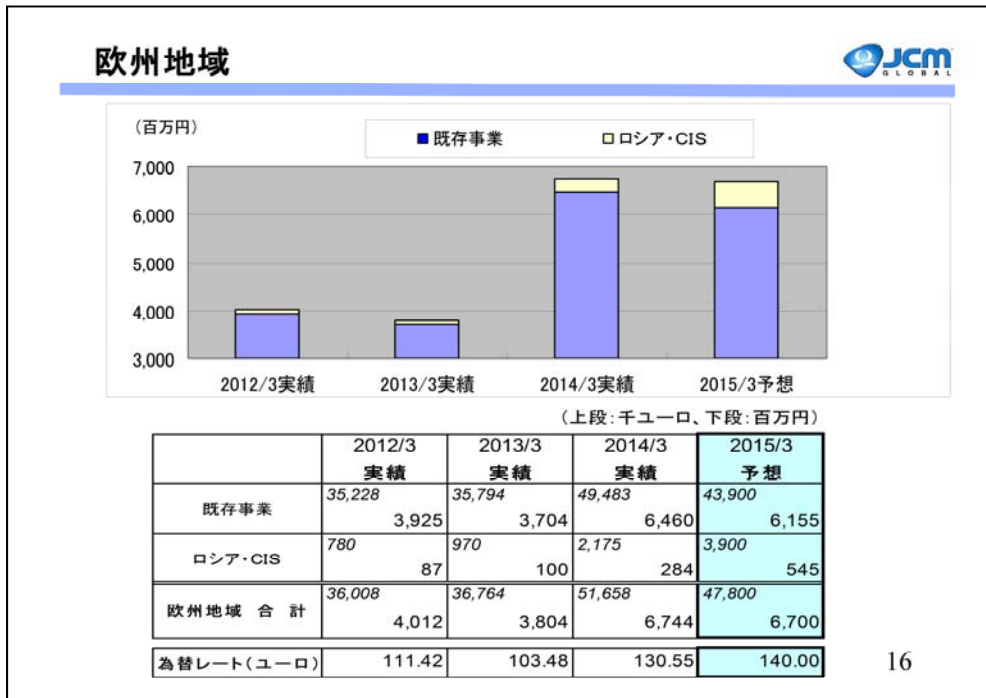
2014年度 : インド、タイ市場の新規開拓

インド	実施		計画	
◇交通 ~ 鉄道券売機				
ラポテスト				
入札~落札				入札 2月→5月に延期、落札 6月から延期の見込
フィールドテスト				
販売				
◇金融 ~ ATM				
ラポテスト				
メーカー採用				
BKでのトライアル				
販売				

16ページでは、北米と同様に、欧州地域セグメントの業績予想について補足いたします。

欧州においては、「ロシア・CIS諸国市場の開拓」を注力テーマとして、取り組んでまいります。

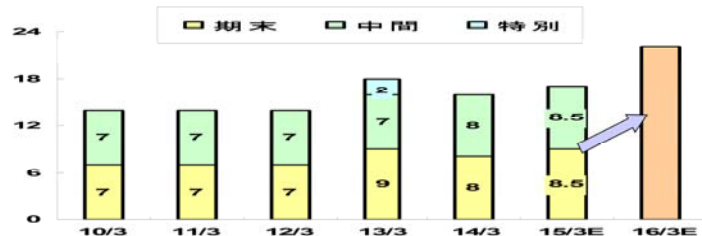
ただ現状では、金融向けキオスクでの採用に向けたテストなどの商権拡大の取り組みを実施しておりますが、混迷を深めているウクライナ情勢の関係もあり、活動計画の修正は避けられない状況にあると考えております。



利益還元



配当の推移



1株当たり利益推移(円)	-34.4	24.7	28.9	53.1	52.6	55.6
--------------	-------	------	------	------	------	------

配当性向推移(%)	—	56.7	48.5	33.9	30.4	30.6
-----------	---	------	------	------	------	------

純資産配当率(%)	1.6	1.7	1.7	2.1	1.7	1.7
-----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

《利益還元基本方針》

成長戦略を通じた利益拡大による「1株当たり利益」の増加に応じた増配の実現に取り組む。
 ・配当性向(連結) 30%以上 ・純資産配当率 2.0%以上を目指す

17

当期の期末配当につきましては、期初の想定どおり、1株当たり普通配当8円(年間16円)とさせていただきます。

進行年度以降につきましては、中期計画に掲げた成長戦略の実行による利益拡大と株主の皆様への利益還元である配当金の安定的な実施という両面で、企業価値の向上を目指してまいります。

なお、進行年度の配当については、当期から1円増配し、年間普通配当17円を予定しております。

トピックスとして、国内カジノの話題に関して触れたいと思います。

国内カジノに関して報道されている開業までの見通しとアジア各国での動きについて、左記のとおりまとめております。

国内カジノ開業までの見通しとアジア他 各国市場の動き



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
日本	○ 「IR推進法」成立 関連法案の整備	○ 「IR実施法」成立 開発地域の指定	事業者の選定		設計～建設～開業準備		東京五輪 開業
マカオ		ギャラクシー サンズ メルコクラウン 香港は国 マカオ ぶ地開通	MGM ウイン SJM	ギャラクシー	2015～17年にかけて、オペレーター全6社がコタイ地区で大規模な新しい総合リゾートの開業を予定している。2015年末までに、香港～マカオ間の大橋完成で香港経由でさらに多くの観光客が訪れる見込み。		
フィリピン	マニラベイPJ (2店開業)	マニラベイPJ (1店開業)	マニラ地区での国家プロジェクト「エンターテイメント・シティ」で4つのカジノを開設(内1店は2013.3に開業済)				
韓国				済州島PJ開業 仁川国際空港PJ開業		2つの統合型リゾート構想が計画されている。	
台湾					馬祖島PJ開業	2018年に馬祖島で開業予定、中国人がターゲット	
その他			ロシア・ウラジオストク		豪・ゴールドコースト		18

まず、国内の動きであります。昨年の12月の臨時国会で提出された「推進法案」が今通常国会で可決されると仮定すれば、民意を反映しつつ議論を深め、1年をかけて関連する現行法の改正とともにカジノを運営することができるようになる実施法を制定することが推進法の目的であることから、1年後に実施、施行される見通しになると思われます。

これを受けて、同年下期以降に区域指定が行われ、同事業年中、あるいは翌年度に事業者選定が行われます。それから、設計から工事などに3年半を要して、2020年にぎりぎり間に合うといったイメージと考えられております。

一方、アジア各国の動向について、上から順番に触れますと、マカオでは現在運営しているカジノオペレーター6社が、コタイ地区に新たに大規模なIR施設を建設中、または計画をしております。

フィリピンでは、マニラ地区での大規模プロジェクトを推進中で、2016年頃までに段階的に開業していく予定で、大きな成長が見込まれております。

韓国では、仁川(インチョン)国際空港とチェジュ島での2つのプロジェクトが進められており、台湾では、2009年に離島に限りカジノ開設を認めるという法改正がされ、マノ島で開設に向けた動きをしております。

このほかでは、2013年に同国初のリゾート型カジノが開設されたベトナムやロシアのウラジオストクでも開設に向けた動きがあります。



日本金銭機械株式会社 <http://www.jcm-hq.co.jp>

お問合せ先 : 広報・IR室 仲谷 06-6703-8400

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

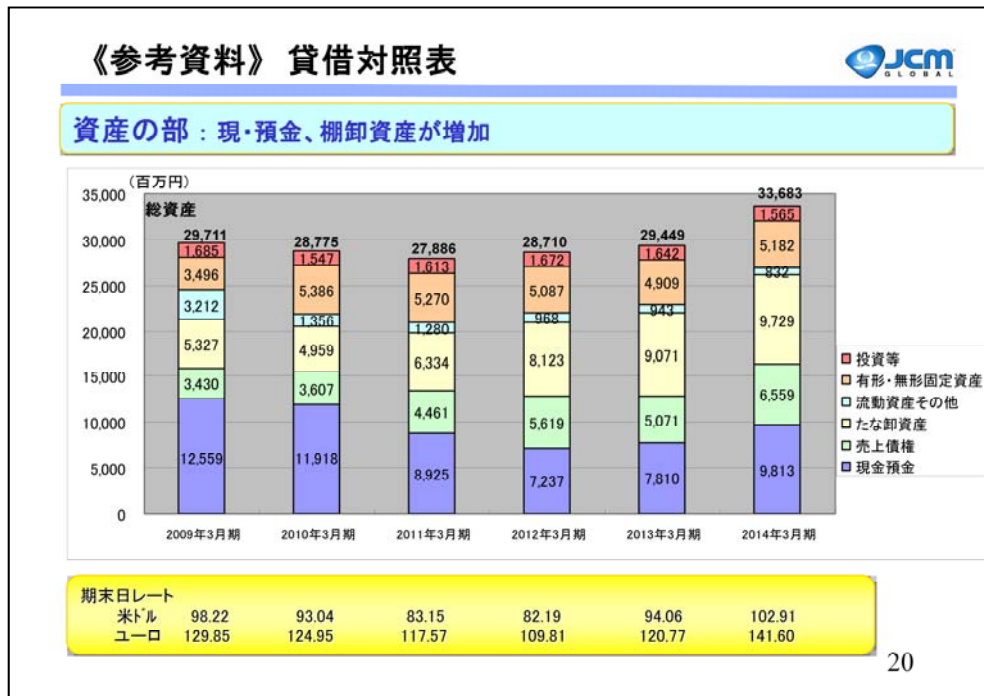
今年の2月に発表いたしました「中期経営計画ローリング・プラン」で掲げた数値目標の達成を目指すとともに、今後の更なる飛躍に向けて、進行年度のポイントとして『新興国や未開拓市場』の開拓に注力するとともに、長期的視点に立ち『次世代の収益基盤を支える新たなビジネスの創出』にも取り組んでまいります。

《参考資料 説明》 バランス・シート 〈資産の部〉

2014年3月末時点の資産は、前期末と比較して、42億33百万円増加して、336億83百万円となりました。

主な内容としては、

- ・「現金及び預金」が20億3百万円、
- ・海外での需要増加を受けて「売上債権」が14億88百万円
- ・「たな卸資産」が6億58百万円 と
流動資産合計で40億37百万円の増加となりました。



《参考資料》 貸借対照表



負債・純資産の部：仕入債務、純資産が増加



自己資本比率(%) 85.2 81.1 80.4 78.2 82.5 80.8

21

《参考資料 説明》 バランス・シート 〈負債・純資産の部〉

負債合計は、前期末と比較して、13億5百万円増加し、64億59百万円となりました。

主な内容としては、

- ・海外市場向けを中心とした好調な需要を背景に生産活動を推し進めた結果、「仕入債務」が12億51百万円の増加が挙げられます。

純資産合計は、前期末に比べて29億28百万円増加し、272億23百万円となりました。

主な内容としては、

- ・当期純利益の計上により、利益剰余金が9億5百万円増加
- ・円安の影響を受けて、在外子会社の評価に係る「為替換算調整勘定」が20億42百万円増加いたしました。

なお、総資産の増加により、自己資本比率は1.7%減の80.8%となりました。

《参考資料 説明》 キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローについてご説明いたします。

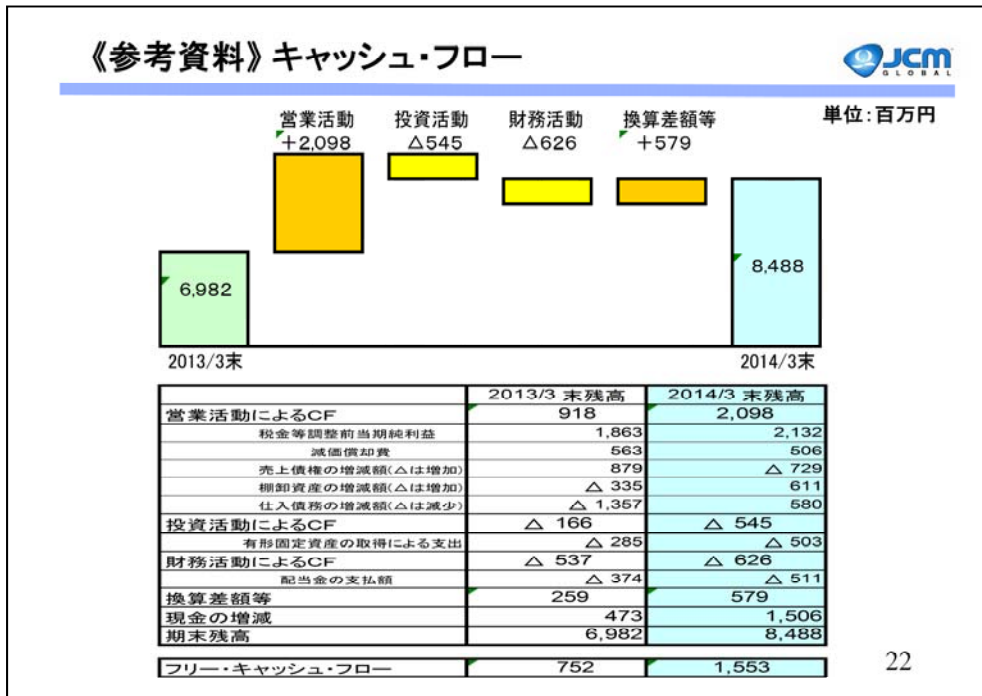
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益21億32百万円の計上により、20億98百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴う有形固定資産の購入などにより、5億45百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払5億11百万円などにより、6億26百万円の減少となりました。

以上のほかに、現金及び現金同等物に係る換算差額5億79百万円の増加があり、「現金及び現金同等物」は前期末に比べて、15億6百万円増加の84億88百万円となりました。

なお、フリー・キャッシュ・フローは、15億53百万円のプラスとなりました。



《参考資料 説明》 研究開発費

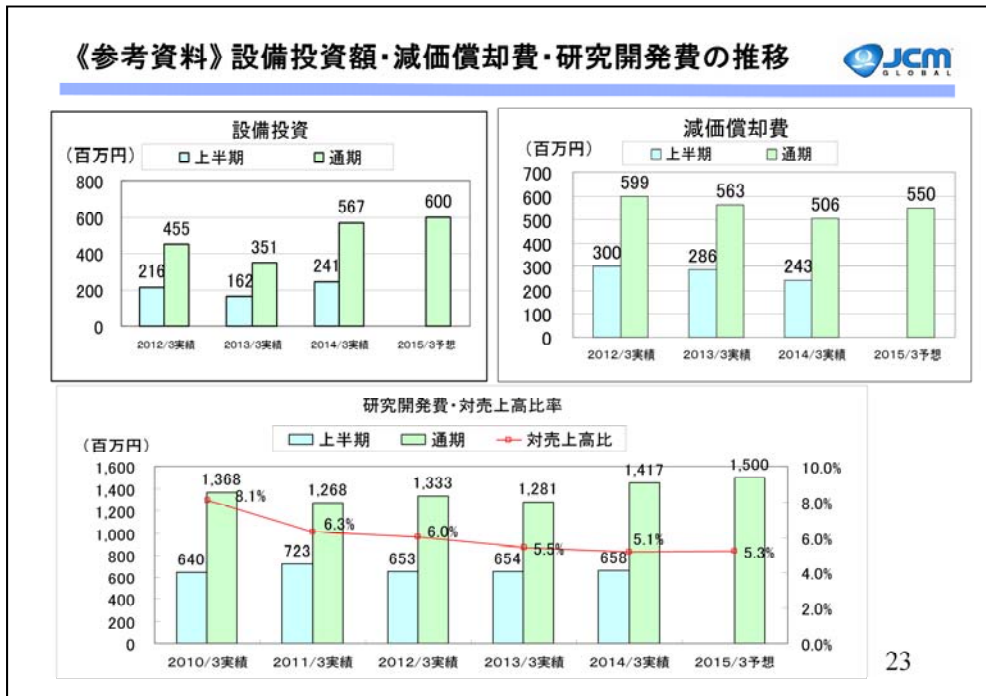
研究開発活動について、ご説明いたします。

当社グループでは「成果は顧客のために」をスローガンに、社会情勢や顧客ニーズの多様化に迅速に対応した市場性の高い製品の創出を目指して展開しております。

また、潜在する新たな市場・可能性を開拓するため、各種商品の要素技術の開発に努めると共に、製品開発力そのものの向上にも取り組んでおります。

海外ゲーミング、国内外の金融・流通・交通の各市場に向けて、紙幣識別ユニット・貨幣還流ユニットなどを、また遊技場向機器市場に向けては、ホール様のカウンター用機器として据置型賞品払出装置やメダル研磨機の開発を行いました。

引き続き、新製品、新技術の開発、商品化のための積極投資を継続してまいります。



《参考資料 説明》 為替の推移

当社グループでは、グループ内の海外取引に係る商流変更の実施により、為替影響を低減させる取り組みを実施してきたこともあり、為替感応度としては、資料に記載しておりますように以前と比べて大きく低減できるようになっております。

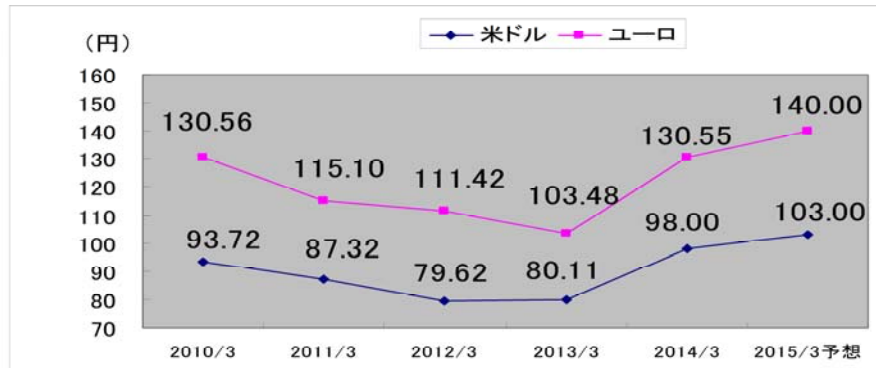
進行年度の前提とする為替レートは、

米ドル 103円

ユーロ 140円

としております。

《参考資料》 為替の推移



1円当たりの営業利益への影響額 (百万円)

米ドル	33	0	9	18	11 (プラス)
ユーロ	18	2	6	7	6 (プラス)

24

《参考資料 説明》 マカオ 月別カジノ売上高推移

2006年にラスベガスを抜いて以降、マカオ市場は成長を続け、2013年度にはラスベガスの約7倍の規模にまで拡大しました。

マカオ市場の特徴としては、1人当たりのカジノ売上高が2006年から2011年にかけて約4倍に増加していることであり、これは訪問者の約60%を占めている中国人の可処分所得の増加に伴っている現象と考えられ、中国の経済成長がマカオの市場を拡大させており、今後も中国の成長に伴う新中間層の台頭などにより、マカオ市場の拡大が続くものと考えられております。

左記のように、2013年度のカジノ売上は過去最高になるとともに、前年比18.6%増と4年連続の2ケタ成長となりました。

2014年度も不安要素は少なく、マーケットは前年比14%前後の増加と、5年連続の最高数値の更新が予想されております。

ちなみに、1～3月までの累計実績では、前年同期間比19.8%増と想定を上回る推移となっております。

《参考資料》 マカオ月別カジノ売上高推移



2013年のカジノを中心とする賭博業収入が3,607億4,900万パタカ(4兆7,620億円)と前の年に比べ18.6%増えた。2桁成長は4年連続で、過去最高を更新。単月売上最高値も、3月、10月と2度更新。(尚、2014年度に入り、2月度に最高値を更新)



《参考資料》連結業績推移



	07/3月期	08/3月期	09/3月期	10/3月期	11/3月期	12/3月期	13/3月期	14/3月期	15/3月期 計画	16/3月期 中期計画
売上高	31,785	28,543	25,572	16,945	19,970	22,129	23,441	27,806	28,500	32,000
営業利益	10.8%	10.0%	10.0%	-2.1%	2.7%	4.8%	5.7%	6.3%	7.4%	8.8%
当期純利益	3,432	2,849	2,562	-363	539	1,052	1,330	1,761	2,100	2,800
当期純利益	1,758	157	2,009	-940	666	778	1,432	1,418	1,500	2,000
レート(米ドル)	116.39	117.71	102.81	93.72	87.32	79.62	80.11	98.00	103.00	103.00
(ユーロ)	146.89	162.00	152.05	130.56	115.10	111.42	103.48	130.55	140.00	140.00
ROE(%)	6.3	0.6	7.6	-3.8	2.9	3.5	6.1	5.5	5.4	7.4